

式 辞

暖かい日が続き、まもなく桜の花が咲き始めます。今日この良き日に、東洋英和女学院高等部の卒業式を迎えられますことを神様に感謝したいと思います。

愛する卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。186名が高等部の全課程を修了し、今日このように卒業式を迎えることができました。神様の招きのもと東洋英和に入学し、たくさんのお友達や先生との出会いがありました。数々の経験を通して立派に成長し、美しく豊かな心を持った卒業生として送り出せることを心から嬉しく思います。今年は、保護者の皆様、多くのご来賓の方々、教職員一同、それに在校生代表として高校2年生と一緒に卒業生の門出をお祝いすることができました。コロナの数年間を経た後では、このような卒業式が決して当たり前ではないことを私たちは知りました。今日、こうして一同に会して卒業のお祝いができることを、改めて神様に感謝したいと思います。

ご家族の皆様、お嬢様のご卒業を心からお祝い申し上げます。これまで長きにわたり、学院へのご協力、お支えをいただきありがとうございました。幼稚園や小学部から東洋英和に通われた方々は、手をつないで小さな歩幅で通われたのがついこの前のことのように思われるかもしれません。中学から入学された方々は、入ったばかりの時には初めての電車通学を心配なされたことでしょう。年月の過ぎるのは早いものです。今日このように高等部の学びの時を終え、立派に卒業の時を迎えることができました。

卒業生の皆さんは、東洋英和という神様のお建てになった学び舎において、お友達と互いに励まし合いながら学び、共に聖書の御言葉に耳を傾け、喜びをもって讃美歌を歌ってこられました。私たち教職員も、同じ学び舎で皆さんと共に喜び、感謝し、祈ってまいりました。今まで安心して学校生活を送れたのは、警備さんや用務さん、購買部やYショップの方々など、多くの方々によって支えられてきたというのをぜひ心に留めておいていただきたいと思います。このようにみんなで楽し

く過ごしてきた東洋英和での学校生活も今日が最後となり、明日からはそれぞれに新しい道を歩み始められます。送り出す私どもは、これまでの日々を思い出しながら喜びと寂しさが入り混じった複雑な思いでおります。また同時に卒業生の皆さんが大きな希望をもってこの卒業式に臨んでおられることに、誇りを覚えています。

さて、東洋英和の卒業式では壇上に卒業生の人数分だけ、黄色いラッパ水仙を飾ります。これは、昭和の初期の頃から続いている英和の伝統の一つです。東洋英和のスクールカラーはガーネットとゴールド。そのゴールドに一番近い色で、花の形が楓の葉っぱに似ているからラッパ水仙を飾るという説がありますが、本当のところはよくわかりません。太平洋戦争よりも後、今から70年ほど前に、当時の母の会会長さんが卒業生全員に1輪ずつ渡したいと考えて、人数分が飾られるようになったそうです。卒業後どこかで水仙を見る度に、敬神奉仕の精神を思い出してほしいという願いがここに込められています。今年のラッパ水仙もヨーロッパから届きました。ロシアの上空はまだ通ることができないので、遠回りして届けられた貴重な水仙です。後程、これをラッピングしていただいて一人一人にお渡ししますので、大切にお持ち帰りください。

さて、先程読んでいただいた聖書の箇所（コリントの信徒への手紙一 3章6節、7節）は、今日卒業式を迎える皆さまに贈る聖句として選びました。コリントの信徒への手紙は使徒パウロが書いた手紙ですから、ここでいう「わたし」というのはパウロのことです。パウロが植えて、アポロが水を注いだけれども、大切なのは、成長させてくださる神様だと書いてありました。神様のお建てになった東洋英和には、それぞれのお家から小さな苗木が預けられて楓の園で育てられてきました。先生たちは若い苗木に水を注ぎます。水不足でカラカラにならないように、あるいは水を入れすぎないように、それはそれは細心の注意を払って水を注いできました。これは、私たちが神様から委ねられた大切なお仕事ですが、最も心に留めるべきことは、神様が一人ひとりを愛し、大切に思い、成長させてくださっているということです。東洋英和の中で神さまの手によって生まれた生徒たちは、何を大切にしなければな

らないか、どこに根を張っていればいいのかがよくわかっています。今日、敬神奉仕を身に着けて卒業していく皆さんは、そのことを忘れずに、どんなことがあっても神様の元に立ち返ることができる人であってほしいと思います。

今日の卒業式を以って東洋英和女学院高等部での生活は終わりです。しかし同時に、新しい世界に一步を踏み出す始まりの日でもあります。式次第の表紙をご覧ください。日本語では卒業証書授与式とあります。卒業の「卒」という字は、「終わる」「締めくくる」という意味の言葉ですから今日は締めくくりの日となります。一方、英語の方は、Commencement という言葉を使っています。Commencement は、とてもフォーマルな言葉で beginning の同意語です。今日は、皆さんにとって業を終える日であり、新しい未来の始まりの日なのです。神様の導きにより東洋英和で学び、神様に成長させていただいた英和生が、新しい世界に派遣されていきます。今日は、希望に満ちた新しい扉を開ける日なのです。

最後にアリソン・マギーの書いた「たくさんのドア」という本から一部を引用として式辞を締めくくりたいと思います。

今日も明日もあなたはたくさんのドアを開けていく
その向こうにたくさんの新しいことが待っている
あなたはどんな人になり、いったいどこへ行くのだろう
どうやって答えを見つけていくのだろう
あなたの心を開くのは誰かの言葉
あなたの心を満たすのは誰かの優しさ
あらゆるものの息吹を胸いっぱい吸い込み、
柔らかな望みに翼を付けてあなたは羽ばたき始める
あなたは自分が思っているよりもずっと大きな強さを持っているんだよ
<中略>
今日も明日もあなたはたくさんのドアをあけていく

その向こうにたくさんの喜びが待っている
あなたはどんな人になり、いったいどこへ行くのだろう
どうやって答えを見つけていくのだろう
見つからない時だってあるに違いない
それでも、山があり、海があり、緑の丘がつらなり、
雨が川に降り注いで、やがて海へと流れ込む
あなたは大空に両手を差し伸べる大地、歌われる時を待っている歌
あなたは自分が思っているよりもずっと大きな愛に満たされているんだよ

愛する186名の卒業生のみなさん、どうぞためらうことなく新しいドアを開けてください。皆さんは、神さまの言葉に心を開き、神さまの愛で心が満たされることを知っているから大丈夫。勇気をもってたくさんのドアを開けてください。

卒業生の皆さんの上に、そしてご家族の皆様の上に神様の豊かな祝福と恵みがありますことをお祈りして、私の式辞といたします。

2024年3月18日

高等部長 楠山真里子